

事務事業名	7069 高齢者敬老事業													
担当組織	福祉部					長寿介護課					担当	高齢者支援担当		
組織コード	R1	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R1	01	03	01	04	03	01	記入日	令和元年 5月16日
	H30	17	10	00		H30	01	03	01	04	04	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち										○ 対象		
分野	04	高齢者福祉										● 対象外		
施策	21	高齢者の社会参加の促進												
事業期間	平成17年度～令和2年度													
根拠法令 通達等						関連計画 施政方針	戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画							
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの													
対象	記念品の贈呈者：70歳以上の市民      敬老祝金の贈呈者：77歳、88歳、99歳、100歳の市民 敬老のつどいの対象者：70歳以上の市民													
事業目的	高齢者の長寿を祝い、併せて敬老の意を表するとともに、明日への活力としていただく。													
事業内容	70歳以上の方に記念品を贈呈し、対象年齢の方に祝金を贈呈する。また、70歳以上の方を対象に文化会館にて「敬老のつどい」を開催。演芸やアトラクションを催す。													
実施主体	■ 市による単独直営      ■ 委託      ( □ 3セク・財団      ■ 企業      □ 市民・NPO )      ■ 協働・協力 ( ボランティア )													

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成30年度 執行額(千円)	令和元年度 予算額(千円)	令和2年度 計画額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	
	敬老アトラクションと祝金・祝品贈呈							
	事業費		55,736	65,593	64,552	69,586	71,673	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		55,736	65,593	64,552	69,586	71,673	
	人件費		2,456.28	4,503.18	4,503.18	4,503.18	4,503.18	
	投入 人員	常勤職員	0.36人	0.66人	0.66人	0.66人	0.66人	
非常勤職員		0.5人	0.2人	0.2人	0.2人	0.2人		
事業費+人件費		58,192	70,096	69,055	74,089	76,176		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H29目標 H29実績	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績
	活動①	入場券配布件数	人	70歳以上の入場券配布件数	1,000	1,000	700	
					851	692	-	
	活動②							
	成果①	参加者数	人	70歳以上の参加者数	880	850	600	
					779	589	-	
成果②								
目標達成状況の分析		C：活動・成果ともに達成できなかった。 <判断理由> 「敬老のつどい」の実施内容を変更したため、当初、想定していた数は超えなかった。 目標は達成していないが、数多くの方に参加いただいた。						

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	28年度	29年度	30年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 高齢者の長寿をお祝いし、敬意を表することは、住み続けたいと思うまちづくりを進めるうえで大切なことであり、また、イベント参加や祝金等の贈呈を楽しみにしている高齢者の生きがいとして目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	28年度	29年度	30年度	A：経費の精査が十分になされている。
	B	A	A	<判断理由> 送迎バス、招待状の廃止を行い、経費削減を行った。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	28年度	29年度	30年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 市職員、協力団体等の協力で、事業は円滑に行われている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 敬老のお祝いという事業の性質上、受益の適正化という判断は難しいが、概ね適正な範囲であるといえる。

## 4. 平成30年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし
見直しの効果	

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input checked="" type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了
	<判断理由> ・敬老祝品事業については、介護保険給付費等が年々増加しており、歳出の見直しが求められていることから、事業の在り方を検討する。 ・敬老祝金事業については、平成27年度に10段階から4段階に変更した経緯があるが、今後さらなる高齢者数の増加が見込まれることから、状況を見ながら、贈呈金額の検討を行う。 ・敬老会については、文化会館の収容人数や送迎バス乗降時の安全性を考慮し、平成29年度から名称を「敬老のつどい」とし、送迎バスの廃止や先着参加申込み方式の導入を行い実施した。今後も事業内容を検証し見直しを継続する。
今後の取組方針	見直しを実施した敬老会事業は、見直し後の状況等を見据えながら、さらに今後の方針を検討していく。令和元年度までは同じ形式で実施して、再度見直しを行う予定である。 敬老祝金については、平成27年度贈呈分から贈呈年齢階層と贈呈額を変更したため、暫くは現状維持としたい。

事務事業名	7074 シルバー人材センター支援事業															
担当組織	福祉部					長寿介護課					担当	高齢者支援担当				
組織コード	R1	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R1	01	03	01	04	04	01	01	記入日	令和元年 5月16日	
	H30	17	10	00		H30	01	03	01	04	07	01	01			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	02 誰もが健康でいきいきと生活できるまち	● 対象  ○ 対象外
分野	04 高齢者福祉	
施策	21 高齢者の社会参加の促進	
事業期間	平成10年度～令和2年度	
根拠法令 通達等	戸田市社会福祉団体等事業補助金交付要綱	戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの	
対象	概ね60歳以上で、自分の持てる技術等を地域社会に役立てようとしている市民	
事業目的	高齢者が働くことを通じて健康維持や社会参加による生きがいを進めることによって、高齢化社会に活力を生み出す。	
事業内容	シルバー人材センター運営資金の助成等	
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )	

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成30年度 執行額(千円)	令和元年度 予算額(千円)	令和2年度 計画額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	
	事業費		25,855	25,454	25,754	25,454	25,454	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		25,855	25,454	25,754	25,454	25,454	
	人件費		682.3	682.3	682.3	682.3	682.3	
	投入 人員	常勤職員	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人	0.1人	
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費		26,537	26,136	26,436	26,136	26,136		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H29目標 H29実績	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績
	活動①	会員数	人	会員数	580	580	650	
					630	695	-	
	成果①	作業受託件数	件	作業受託件数	1,770	1,780	1,800	
					1,822	1,959	-	
	成果②							
目標達成 状況 の分析	<p>A：活動・成果ともに達成した。</p> <p>&lt;判断理由&gt;            会員数については、積極的な広報活動の結果、約10%増加した。また、営業努力により、作業受託件数は増加し、平成27年度より開始した派遣業務を強化することで、配分金額は増加し目標は達成できた。</p>							

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	28年度	29年度	30年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	B	A	A	<判断理由> 働くことを通して、健康維持や社会参加による生きがいづくりを求める高齢者も多く、こうした高齢者のニーズに応じることができる事業であり、目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	28年度	29年度	30年度	A：経費の精査が十分になされている。
	B	A	A	<判断理由> 高齢者の生きがいとしての就労創出事業であり、施策の目的に合致していることから、シルバー人材センター運営補助として、人件費及び事務管理費等を支援することについては適正である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	28年度	29年度	30年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	B	A	A	<判断理由> 高齢者の生きがいとしての就労創出事業の運営に対して、運営費を補助支援する方法は効率的ではあるが、平成24年4月1日から公益社団法人格を取得した現在、さらなる自主的な運営の推進を図っていくことが必要である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 補助事業については、今後の事業状況により、ある程度の目標達成がなされた段階で見直すことも視野にいれておくことが必要である。

## 4. 平成30年度中に実施した見直し内容

見直し内容	請負事業及び平成27年5月より開始したシルバー派遣事業について、新規契約の開拓に努めた結果、個人宅や物流業などの新規契約先確保を図られた。
見直しの効果	平成30年度実績は請負事業において、新規契約獲得件数が196件あった。またシルバー派遣事業において、新規契約獲得件数が5件あった。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了
	<判断理由> 元気な高齢者の生きがいのための就労の創出に加え、高齢者の収入を伸ばすための就労の創出としても今後期待される事業であるため、会員数の増加と作業受託件数の増加を続けられるよう、今後も支援していく。
今後の取組方針	高齢者が働くことを通じて健康維持や社会参加による生きがいづくりができる事業である。今後においては、団塊の世代が高齢期を迎えることや、女性会員による家事仕事へのニーズが高まっていることを踏まえ、会員数や作業受託件数の増加を目指し、市としては広報紙や窓口における啓発等の周知活動をさらに推進していく。

事務事業名	7076 老人クラブ活動事業													
担当組織	福祉部					長寿介護課					担当	高齢者支援担当		
組織コード	R1	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R1	01	03	01	04	05	01	記入日	令和元年 5月16日
	H30	17	10	00		H30	01	03	01	04	08	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち									○ 対象		
分野	04	高齢者福祉									● 対象外		
施策	21	高齢者の社会参加の促進											
事業期間	昭和40年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	老人福祉法 戸田市老人クラブ補助金交付要綱					関連計画 施政方針	戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画						
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	戸田市老人クラブ連合会												
事業目的	戸田市老人クラブ連合会及び同連合会を構成する単位老人クラブへの支援を通じて、高齢者の主体的活動及び社会参加の促進を図る。												
事業内容	戸田市老人クラブ連合会の活動や資金を援助する。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成30年度 執行額(千円)	令和元年度 予算額(千円)	令和2年度 計画額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	
			老人クラブ活動資金の補助					
	事業費		3,463	6,783	6,981	6,783	6,783	
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0	
	県支出金		552	552	552	552	552	
	起債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		2,911	6,231	6,429	6,231	6,231	
	人件費		5,321.94	4,776.1	4,776.1	4,776.1	4,776.1	
投入 人員	常勤職員		0.78人	0.7人	0.7人	0.7人	0.7人	
	非常勤職員		0人	0.08人	0.08人	0.08人	0.08人	
	事業費+人件費		8,785	11,559	11,757	11,559	11,559	
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H29目標 H29実績	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績
	活動①	補助対象クラブ数	クラブ	補助金の交付対象クラブ数		33	33	35
	活動②					33	35	—
	成果①	TODA元気体操の開催教室数	箇所	TODA元気体操の教室数		3	5	6
	成果②					5	5	—
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 連合会を構成する単位老人クラブの数は、昨年度より2クラブ増加し、高齢者の社会参加の促進が図られた。 また、老人クラブが主体となったTODA元気体操の教室が増加しており、介護予防に向けた取組みの強化が進んでいる。							

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	28年度	29年度	30年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 住み続けたいまちづくりを推進するためには、高齢者の生きがいがづくり、社会参加の促進が必要である。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	28年度	29年度	30年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 補助金については、要綱により、補助対象及び水準を明確にしている。また、各単位老人クラブ、老人クラブ連合会の収支決算書において、現在の補助は適正な範囲である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	28年度	29年度	30年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 単位老人クラブ及び老人クラブ連合会の運営は、各クラブの自主・自立を基本に運営・支援をしている。今後は、自主・自立の活動を明確にするためにも、現在市が実施している当該団体の事務局について、自主・自立の活動、外部委託化を検討していくことが必要である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 各老人クラブの活動費は、市、社会福祉協議会からの補助金と当該クラブの会費で賄われている。

## 4. 平成30年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input checked="" type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了
	<判断理由> 高齢者が元気でいきいきと生活し、地域活動を積極的に展開するために補助事業は継続する必要があると思われる。 平成31年度より、「シルバースポーツ大会事業」が統合される。
今後の取組方針	老人クラブの自主性、自立性を高めるため、事務局を市の外部に置き、運営・活動が行えるよう、運営手法の見直しについて検討していくことが課題である。 なお、例として、シルバー人材センターや社会福祉協議会への移行について検討していきたい。 平成31年度より、「シルバースポーツ大会事業」が統合される。

事務事業名	7070 健康長寿入浴事業													
担当組織	福祉部					長寿介護課					担当	高齢者支援担当		
組織コード	R1	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R1	01	03	01	04	92	98	記入日	令和元年 5月16日
	H30	17	10	00		H30	01	03	01	04	05	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち									○ 対象		
分野	04	高齢者福祉									● 対象外		
施策	21	高齢者の社会参加の促進											
事業期間	昭和53年度～平成30年度												
根拠法令 通達等	戸田市高齢者総合介護福祉条例					関連計画 施政方針		戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画					
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	65歳以上の市民												
事業目的	高齢者の入浴による健康管理及び社会参加や情報交換の場づくりの一助とする。												
事業内容	公衆浴場に150円の利用者負担で入浴することができる入浴証の引換券を対象者に配布する。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 ( 公衆浴場組合 )												

2. 実施結果

		平成30年度 執行額(千円)	令和元年度 予算額(千円)	令和2年度 計画額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)		
事業の 予算・実績	事業内容	健康長寿入浴事業						
	事業費	30,130	0	0	0	0		
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	30,130	0	0	0	0	
	人件費	1,569.29	0	0	0	0		
	投入 人員	常勤職員	0.23人	0人	0人	0人	0人	
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費		31,699	0	0	0	0		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H29目標 H29実績	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績
	活動①	入浴証引換券発行件数	件			1,500	1,500	
						1,617	1,526	-
	成果①	入浴証引換件数	件			5,800	6,100	
						6,218	6,435	-
	成果②	入浴利用回数	件			170,000	140,000	
145,512						142,299	-	
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 高齢者の増加に伴い、入浴証引換件数は増加した。一方、平成29年4月に公衆浴場（梅の湯）が廃業になったため、利用回数は減少した。							

## 3. 評価結果

	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	28年度	29年度	30年度	
施策への貢献度				B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>閉じこもりがちな高齢者が孤立することにより、健康や生きがいなどへ意欲の喪失が懸念されているため、公衆浴場という場において、人と人とのふれあいができることは、健康や生きがい創出に有効な手段であり、施策目標達成に貢献しているといえる。</p>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	28年度	29年度	30年度	
	C	C	C	<p>C：経費の一部に見直しが必要である。</p> <p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>財政状況が厳しくなる中、事業効果と相応の経費水準となるように、市と浴場組合、利用者間での負担額の見直しが課題である。</p>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	28年度	29年度	30年度	
	B	B	B	<p>B：事業手法は適正な内容である。</p> <p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>市からは定額で浴場組合に事業の支援をしている。カード形式にしているため、集計等、事業の効率化は図られている。</p>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	
	C	C	C	<p>C：受益・負担の一部に見直しが必要である。</p> <p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>正規の入浴料（430円）を基に、受益者負担の適正化という観点から、費用等の再検討が必要である。</p>

## 4. 平成30年度中に実施した見直し内容

見直し内容	平成29年4月30日付けで、梅の湯が廃業となり、当事業が開始された平成20年4月1日には7か所あった公衆浴場は、現在4か所となっている。浴場数の減少、年間利用数が減少しているため、補助金額や利用者負担額の見直しを検討した。
見直しの効果	公衆浴場組合と協議の結果、梅の湯の廃業により、全体の利用数が減少しているため、組合としても補助額が減ることは致し方ないという見解を示していた。そのため、利用者負担額(利用料)を増やし、補助額も減少するという方向性が出された。今後、周囲の状況や時期を見極めながら検討していく必要がある。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了 <input checked="" type="radio"/> 平成30年度で終了
	<p>&lt;判断理由&gt;</p> <p>市内銭湯の数が減少していることに伴い、利用者も微減している。そのため、利用者数に則した補助金額に今後見直す必要がある。</p> <p>平成31年度より、「高齢者介護予防・生活支援事業」に統合する。</p>
今後の取組方針	<p>市から浴場組合に支援をしているが、厳しい財政状況から受益者負担の適正化を含めて今後見直しが必要である。</p> <p>周囲の状況や時期を見極めながら検討していきたい。</p> <p>平成31年度より、「高齢者介護予防・生活支援事業」に統合する。</p>



事務事業名	7077 シルバースポーツ大会事業													
担当組織	福祉部					長寿介護課					担当	高齢者支援担当		
組織コード	R1	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R1	01	03	01	04	94	98	記入日	令和元年 5月20日
	H30	17	10	00		H30	01	03	01	04	09	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ										実施計画候補			
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち								○ 対象			
分野	04	高齢者福祉								● 対象外			
施策	21	高齢者の社会参加の促進											
事業期間	昭和49年度～平成30年度												
根拠法令 通達等						関連計画 施政方針	戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	概ね60歳以上の市民												
事業目的	スポーツ大会を通じて、高齢者の健康と生きがいを助長し、高齢者福祉の増進を図る。												
事業内容	年1回、10月にスポーツ大会を開催する。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 ( 老人クラブ 連合会 )												

2. 実施結果

		平成30年度 執行額(千円)	令和元年度 予算額(千円)	令和2年度 計画額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	シルバースポーツ大会の開催					
	事業費	1,463	0	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	1,463	0	0	0	0
	人件費	3,070.35	0	0	0	0	
	投入 人員	常勤職員	0.45人	0人	0人	0人	0人
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人
事業費+人件費		4,533	0	0	0	0	
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績
	活動①	大会開催回数	回		1	1	
					1	1	-
	成果①	大会参加人数	人		800	800	
					799	761	-
	成果②						-
						-	
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 市内単位老人クラブの会員の参加が主ではあるが、去年と比較して、参加者数は微減した。また、競技内容を変更することで新鮮な内容で参加していただいた。						

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	28年度	29年度	30年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 競技内容を変更して、参加者に楽しんでいただける競技を実施した。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	28年度	29年度	30年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 運営業務を委託することで経費の削減に努めた。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	28年度	29年度	30年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 委託業者と打ち合わせを重ね、運営について工夫した。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 市民への公平性を考慮して、60歳以上の市民であればどなたでも参加できる行事となっている。

## 4. 平成30年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了 <input checked="" type="radio"/> 平成30年度で終了
	<判断理由> 本事業を目標に健康を維持し、生きがいのため楽しく参加している高齢者のことを考えると、現状の規模で維持することが必要と考えられる。 平成31年度より、「老人クラブ活動事業」に統合する。
今後の取組方針	高齢者が生涯健康で生きがいのある暮らしを送ることができるよう、多くの高齢者の参加を促進していく。 また、具体的に事業を進める中において、外部への情報発信に当たっては、シティセールス効果にも配慮した取り組みを行っていく。 平成31年度より、「老人クラブ活動事業」に統合する。